

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：「男女共同参画は学問を変えるか？」

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

・主催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、複合領域ジェンダー分科会、史学委員会歴史学とジェンダー分科会、法学委員会ジェンダー法分科会、科学者委員会男女共同参画分科会

・後援：日本女性学会、日本フェミニスト経済学会、国際ジェンダー学会、ジェンダー法学会、ジェンダー史学会、日本語ジェンダー学会、人文社会科学系男女共同参画学協会連絡会設立準備会、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター、東北大学男女共同参画推進センター、明治大学法科大学院ジェンダー法センター、明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター、一橋大学大学院社会学研究科ジェンダー社会科学研究センター、早稲田大学ジェンダー研究所、東京女子大学女性学研究所、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所、大阪府立大学女性学研究センター、京都橘大学女性歴史文化研究所、愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所、立教大学ジェンダーフォーラム、北海道大学大学院文学研究科応用倫理研究教育センター、イメージ&ジェンダー研究会、女性科学研究者の環境改善に関する懇談会、認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク

3 開催日時：平成 26 年 5 月 31 日（土）10 時 00 分～18 時 00 分

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

女性の研究者が学問の世界に進出して久しい。これまで女性の少なかった理工系の分野でも女性研究者の育成が叫ばれるようになった。他方、学問の領域にジェンダー視点を持ちこむジェンダー研究も各分野でいちじるしい進展を見るようになった。にもかかわらず学問分野における男女共同参画は、かならずしもジェンダー研究とは親和性が高くないように見える。それどころか、職場の男女共同参画と同様、学問のディシプリンに影響を与えない範囲で、女性の参加が歓迎されているようにも思える。はたして、真理の奉仕者としての研究者は、ジェンダーを問わず同じ能力を発揮することが期待されているのだろうか？それとも女性が参入することによって、学問の組織、内容、アプローチ、評価基準等に何らかの変化が起きるし、また起こす必要があるのだろうか？このシンポジウムでは、女性研究者の参加が学問の世界を変容させる可能性と限界について、各分野の経験にもとづいて、真摯な検討を行いたい。

6 参加人数：140名

講演者等：16名

その他の参加者：メディア関係等若干名

7 特記事項：

- ・『学術の動向』2014年12月号に小特集として掲載予定
- ・午前の部の報告は科学者委員会男女共同参画分科会から調査報告書として刊行予定
- ・午後の部の報告およびコメント、趣旨説明と閉会挨拶は後援団体NPO法人ウィメンズアクションネットワークのwebサイト上で本人の許可を得た上で、映像配信の予定

<http://wan.or.jp/>